

いのちの言の葉

「言葉のおくりもの」(総合的な学習の時間)

黒部市立田家小学校 対象：4年児童、保護者

富山県教育委員会 平成20年度いのちの教育支援事業 平成20年11月27日実施

「喜びのポケットをあったか言葉でいっぱい」

人の脳には喜びのポケットと悲しみのポケットがあり、あったか言葉をかけてもらうとうれしい気持ちが喜びのポケットに入り、元気や自信が出てくることや、思いやりのないちくちく言葉をもらうと、いやな気持ちが悲しみポケットに入り、力がなくなることをご教授いただきました。

山上 孝司 先生のプロフィール

財団法人北陸医学予防医学協会センター長

いのちの授業を受けてみて、ぼくも人の悲しみのポケットに傷をつけたことがあるな、これからは人にやさしくしようと思いました。

私は、山上先生の授業で、あったか言葉が喜びのポケットに満タンになると元気がわいてくると聞いて、あれからなるべく友達にあったか言葉を使うようになりました。

一番心に残ったのは、クローバーの形の紙に手紙を書いたことです。友達からよいところを書いた手紙がたくさん来て、読むと心があったかなうれしかったです。

あったか言葉を言われると自信をもって、ちくちく言葉を言われると自信がなくなることが初めて分かりました。ぼくもあったか言葉をたくさん言えるようにしたいです。

【内容】

- 1 事前活動
4月に決めた学級目標から、これまでの歩みを振り返る。
- 2 山上先生のいのちの授業
①喜びのポケットと悲しみのポケット
②あったか言葉とちくちく言葉
③友達のよいところ
④家の人のよいところ
- 3 授業後の保護者への講話
- 4 事後活動
全校集会(フレンドリー人権集会)で学んだことを全校に広める。

子どもたちが楽しく、そして真剣に「言葉」について学んでいる姿が印象的でした。あったか言葉の大きな力、外の人も何よりも自分自身を心豊かに、そして自信をもたせてくれることに気づかせていただきました。

山上先生の授業は大変分かりやすく、心が温かくなりました。

言葉、表情、態度、行動、手紙、どんな手段でも相手のことを思い、自分の気持ちを伝えることが大切だということを改めて勉強しました。そして、その相手の中には子どもも入るのだと知り、今までの自分について反省しました。

子どもたちが友達を思って書いた手紙、短い文章でしたがとても温かい文章でした。ありがたい気持ちがよく伝わってきました。

